

英語英文学科履修案内

(2014年度入学者に適用)

【英語英文学科の教育目標】

ますますグローバル化する国際社会の中で、英語は国際共通語として定着し、文化的背景を異にする人々と英語を使って交流する機会が今後ますます増加するだろう。英語英文学科では、英語の実践的な運用能力を育成し、英語学、英語教育、英語圏文学、英語圏文化の学修を通して、英語圏の言語・文化・社会・歴史などについての理解を深め、異文化と人間の普遍性についての深い見識を持ち、異文化間の相互理解・文化交流に貢献できる国際的な教養を身に付けた人材を育成する。

【カリキュラムの概要と特色】

英語英文学科のカリキュラムは、1. 専攻科目〔A群・B群科目と関連科目〕(計96単位以上)、2. 共通科目〔FYS(2単位必修)、外国語科目(8単位以上)、共通基盤科目・共通テーマ科目(22単位以上)〕(計32単位以上)の2つの枠組みから成り立っている。卒業するためには、これらの科目を含めて合計128単位以上修得しなければならない。

【専攻科目の履修要領】

カリキュラムには、英語の運用・訓練を主眼とするA群演習科目群と、文学を含む英語圏文化の研究と英語を中心とした言語研究を主軸とするB群講義科目群とが置かれている。専門教育は1年次から開始されるが、3年次になるとより明確な形で分野別に「英語学・英語教育」コース、「英語圏文学」コース、「英語圏文化」コースの3コース(3分野4領域)に分かれる。英語に関わる研究といっても、その分野や目的により修得すべき知識・技能等が変わってくるからである。自分に合った研究課題を決めるためにも、1・2年次においては、広くさまざまな科目をバランスよく履修して、卒業後の進路も見据えながら自分の関心と適性がどこにあるかをしっかり見極めることが大切である。

授業科目については「年次」を用いて配当しているが、開講形式としてはセメスター制をとっている。入学時のクラス別ガイダンスで担任より説明するが、英語英文学科の「教育課程表」の〔履修要件〕と〔卒業要件〕を熟読し、大学生としての自覚を持って卒業までの単位履修方法を正しく理解しておくこと。これは学生の自己責任である。

1 A群とB群について

専攻科目については、大きくA群・B群科目と関連科目とに分かれている。

A群は、「基礎研究」(2年次)、「専門研究」(3年次)、「卒業論文」(4年次)以外はすべて演習を主体とする科目である。つまり、A群は言語の訓練を行う科目群で、英語の読解力、聴解力、表現力など運用能力を総合的に伸ばすことに重点を置く。なお、A群科目の単位は、「専門研究」「卒業論文」「スタディー・イングリッシュ・アプロード(SEA)」を除きすべて1科目(半期)1単位である。したがって、B群の必修34単位を修得するには17科目履修すればよいのに比べ、A群必修42単位を満たすためにはより多くの科目を履修しなければならない。これはA群科目を通して学生の英語運用能力を高めるためである。

A群が演習科目であるのに対して、B群は英語学・英語教育、英語圏文学、英語圏の文化・社会に関する知識を身につけるための講義科目で、すべて1科目(半期)2単位である。

2 専門基礎科目について

A群の中で、1・2年次の科目には専門基礎科目として、聴く、話す、読む、書くという英語の基礎学力の強化・充実をはかるために、Grammar, Composition, Speaking, Pronunciation and Listening, Reading, English Phoneticsと各種の演習科目が配置されている。2年次のReadingでは題材によりLiteratureとScience and Cultureを選択履修することができる。「学習英文法」は英語教員をめざして教職課程を履修する学生を対象とする科目である。

専門基礎科目からは、卒業要件として20単位以上を修得しなければならないが、2年次終了時までにA群専門基礎科目の修得単位数が16単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できないので特に注意が必要である。

3 3つのコース制と3分野について

【専攻科目の履修要領】で述べたように、学生は3年次から分野別に、「英語学・英語教育」、「英語圏文学」、「英語圏

文化」の3コースのいずれかを選択する。選択したコースにより、A群・B群の3つの分野から修得すべき単位数が異なるので注意すること。

卒業要件として、A群の選択必修科目については、自分の選択分野の科目と共通科目(コミュニケーション)から各4単位以上、他の2分野から各2単位以上の計22単位を、また、B群の選択必修科目も、自分の選択分野の科目から16単位以上、他の2分野から各4単位以上の計34単位を修得しなければならない。(後掲 pp.119-120の〔卒業要件〕のコース別の表の専攻科目(A群・B群)の項を参照。)

英語学・英語教育の分野

英語という言葉の音声、構造と意味、使用に関わる理論およびその歴史を学びながら、「言語や人間について」の知識を深めるとともに、英語運用能力を涵養し、「英語を知る」ことにも力を注ぐ。また、将来、中学校・高等学校英語教科教員免許状の取得などをめざす学生のために教職課程が提供する「教科教育法(英語)～」以外の学科独自の英語教育関連科目として「英語教育学入門」(1年次前期、教職課程仮登録者のみ履修可能)や「英語教育学」・「児童英語教育」(3・4年次、ともに教職課程履修者以外の履修も可能)を提供し、教員に必要な専門知識と技能の習得をはかる。

英語圏文学の分野

英語で書かれた詩、小説、演劇などの文学作品や文学批評の読解と分析を通して、英語圏の文学についての理解を深めることを目的とする。作品が生み出された文化的・歴史的背景の研究や、日本を含む他の文化圏の文学との比較研究も本分野に含まれる。古典から現代に至るまでの英語圏の多様な文学作品の研究を通して、ことばへの感性を高め、批判的思考力を養う。

英語圏文化の分野

英語圏の文化に関する理解力・洞察力を養うことを目的とする。具体的な研究分野は多岐にわたり、特定の国・社会の制度・歴史・思想などを考察する地域研究に加え、国家間に生じる問題を取り扱う国際関係論や他文化との比較研究も範囲に含まれる。また、文化間の交流に焦点をあてた異文化コミュニケーション研究や映画などの文化表象の批評も射程に入る。

4 共通科目(コミュニケーション)について

A群の共通科目(コミュニケーション)は、3つのコースのいずれを選択した場合にも必要な、英語の高度な表現力養成のために設置された科目である。1・2年次のSpeakingやWritingなどの延長線上にある「上級科目」である。表現力を音声言語(Oral Communication, Speech and Debate, 通訳演習)と文字言語(Essay Writing, 翻訳演習)の両面から強化し、英語によるより高度な実践的コミュニケーション能力を育成するための科目である。

5 専門研究について

さまざまな学問の領域に興味・関心を持ち、視野の拡大を図ることは大学教育の目的の一つであるが、何を専門的に研究するかを自ら定め、その研究に関連する分野について重点的に学修することも、それに劣らず重要である。

専門研究は、2年次の専門基礎科目「基礎研究」で修得した専門的基礎知識と研究方法をもとに、3年次の「専門研究」で特定の課題に取り組んで研究をさらに深め、4年次の「卒業論文」で4年間の学修の集大成ともいえるべき卒業論文を執筆することを目的とする。専門研究は必修ではないが、学科カリキュラムの基幹として位置づけられており、多くの学生の履修が望まれる。

3年次の「専門研究」では、専門的知識をさらに深め、英語または日本語による卒業論文の作成を開始する。

4年次の「卒業論文」では、指導教授から個別に指導を受けて卒業論文を完成させる。

専門研究の履修および卒業論文の作成・提出等についての詳細は、2年次10月中旬に学科が発行する『専門研究要項』、および説明会や掲示等により指示するが、ここでは重要事項として次の4点を挙げておく。

- (1)「基礎研究Ⅰ」(1単位)、「基礎研究Ⅱ」(1単位)、「専門研究Ⅰ」(2単位)、「専門研究Ⅱ」(2単位)および「卒業論文」(4単位)は3年間継続して履修することを原則とする。
- (2)「専門研究」の履修には「基礎研究Ⅱ」の単位修得が、「卒業論文」の履修には「専門研究Ⅱ」の単位修得が要件となる。
- (3)「専門研究Ⅰ」の履修を希望する者は、2年次後期(4セメスター)に履修希望届を提出し、面接・選考を経て3年次の前期(5セメスター)に履修登録をする。
- (4)卒業論文は、所定の提出日時に遅れた場合は受理されない。

なお、「基礎研究」、「専門研究」、「卒業論文」はいずれも必修ではない。これらを履修しない者は、A群からそれに代わる単位数を別科目で修得すれば、卒業要件単位を満たすことは可能である。

6 関連科目について

卒業には、関連科目として、「情報処理 Ⅰ・Ⅱ」・「卒業要件単位数」を超える専攻科目（A・B群科目）・共通教養科目（外国語科目・共通基盤科目・共通テーマ科目）、「教職に関する科目」、他学部他学科開講の専攻科目から20単位以上を修得しなければならない。

大学が定める所定の手続きを経て海外留学が許可された者の履修方法については、別途「留学生に関する取扱内規」に従うこと。

【共通教養科目の履修要領】

「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」は2単位必修、外国語科目はドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語のうち、各自が選んだ1外国語8単位が必修である。必修8単位は初級4単位と中級4単位をもって充当する。さらに高度な運用能力の修得を希望する者は上級を履修することができる。（英語英文学科では英語を除いた上記のものを外国語科目として扱う。）共通基盤科目・共通テーマ科目は、合計22単位以上を履修しなければならない。ただし、この22単位の中には最低、共通基盤科目のうち「人文の分野」、「社会の分野」、「自然の分野」の3分野からそれぞれ4単位、共通テーマ科目から2単位、それら以外に両科目全体の中から8単位が含まれていなければならない。

【履修単位の上限】

一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合には、その科目の単位数を二分割し、前期・後期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、4年次に限り特別の事情のある者は、学部長に申請することにより、卒業要件単位数の不定分を上限として、超過履修を許可される場合がある。なお、卒業要件単位に算入されない各種課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。

英語英文学科

Department of English

英語コミュニケーション能力養成科目
1,2年次: ネイティブ・スピーカーによる少人数編成授業等を通して基礎的コミュニケーション能力を身につける。
3,4年次: 英語による表現能力をさらに向上させる。

専門分野修得科目
英語圏の言語・文化・社会・歴史について深く研究し、専門的な知識を身につける。
「英語学・英語教育コース」「英語圏文学コース」「英語圏文化コース」から興味に合ったコースを選択し、専門的な知識・技能を身につける。

専門研究(ゼミ)
4年間の学修の集大成として「卒業論文」の執筆に向け、少人数のゼミ形式で研究する。

